(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3604736号
(P3604736)
(45)発行日　平成16年12月22日(2004.12.22)　(24)登録日　平成16年10月8日(2004.10.8)

(51)Int.Cl.[7]	F I	
B26D 5/00	B26D 5/00	
E04F 13/08	E04F 13/08	B
E04G 21/14	E04G 21/14	

請求項の数 6　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平6-171918
(22)出願日　平成6年6月30日(1994.6.30)
(65)公開番号　特開平8-19995
(43)公開日　平成8年1月23日(1996.1.23)
審査請求日　平成12年3月27日(2000.3.27)

(73)特許権者　392026361
株式会社トーア
新潟県長岡市今朝白２丁目５番１号
(73)特許権者　000000044
旭硝子株式会社
東京都千代田区有楽町一丁目１２番１号
(74)代理人　100086449
弁理士　熊谷　浩明
(72)発明者　小島　義雄
新潟県長岡市今朝白２丁目５番１号　株式会社トーア内
(72)発明者　野口　信比古
埼玉県新座市野火止８丁目１６番１３号　株式会社トーア関東支店内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】外壁工法

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

それぞれを水平載置して積み重ねた際に表出する端面の側に建築物に壁面を形成する際の割当て位置との関係で定まる必要情報を個別に教示するための識別記号が付された標準規格品としての単位壁材と、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして同様に識別記号が付された墨付け壁材と、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して同様に識別記号が付されたプレカット壁材との少なくともいずれか一種もしくは二種以上を任意に組み合わせて構成される複数枚の外壁材が用いられ、これら複数枚の外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねる積重ね梱包により梱包し、

その施工時には、梱包状態を解除して最上位に位置する外壁材から順次取り出し、必要があれば所定のカット処理を行い、

その端面に付された前記識別記号が教示する壁面部位が建築物における窓等の開口部が位置する部位を含み、この開口部の開口縁部と突き合わされる外壁材の対応部位は、開口部の周縁部に予め配設されている囲枠材が備える受け溝部内に納めながら取り付けることで壁面を形成することを特徴とする外壁工法。

【請求項２】

前記各外壁材は、前記積重ね梱包をさらに建築物の各壁面が向いている方位の別に仕分けた方位別梱包により用意されることを特徴とする請求項１記載の外壁工法。

【請求項３】

前記各外壁材は、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意されることを特徴とする請求項１または２に記載の外壁工法。
【請求項４】
それぞれを水平載置して積み重ねた際に表出する端面の側に建築物に壁面を形成する際の割当て位置との関係で定まる必要情報を個別に教示するための識別記号が付された標準規格品としての単位壁材と、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして同様に識別記号が付された墨付け壁材と、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して同様に識別記号が付されたプレカット壁材との少なくともいずれか一種もしくは二種以上を任意に組み合わせて構成される複数枚の外壁材が用いられ、
これら複数枚の外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねる積重ね梱包により梱包し、
その施工時には、梱包状態を解除して最上位に位置する外壁材から順次取り出し、必要があれば所定のカット処理を行い、
その端面に付された前記識別記号が教示する壁面部位が建築物において出隅もしくは入隅が位置する隅部を含み、この隅部にて突き合わされる外壁材の対応部位は、前記隅部に外側から配設される役物材により隠蔽して取り付けることで壁面を形成することを特徴とする外壁工法。
【請求項５】
前記各外壁材は、前記積重ね梱包をさらに建築物の各壁面が向いている方位の別に仕分けた方位別梱包により用意されることを特徴とする請求項４記載の外壁工法。
【請求項６】
前記各外壁材は、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意されることを特徴とする請求項４または５に記載の外壁工法。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は外壁工法に係り、さらに詳しくは、建築物の外周面に壁面を形成しようとする際、現場における作業手順を規格化して高い品質の外壁を構築するために有効な外壁工法に関する。
【０００２】
【従来の技術】
標準規格品として供給されるサイディングボードなどの窯業系板材からなる単位壁材は、耐火性や耐久性に優れているばかりでなく、外観意匠的にも好ましい造形効果を発揮させることができることから、近時、建築物の外壁材として好んで用いられるようになってきている。
【０００３】
ところで、サイディングボードなどの窯業系板材からなる単位壁材を建築物の外壁材として用いる場合には、通常、建築現場で寸法合わせし、標準規格品が直ちに取り付けられる壁面部位にはそのままこれを使用し、標準規格品のままでは大き過ぎて取り付けることができない壁面部位には不要部位を切除して使用に供されていた。
【０００４】
しかし、上記工法による場合には、建築現場でいちいち寸法合わせをする必要があり作業的に煩雑であるほか、端材が残材として発生して省資源を志向する時代の要請に反するのみならず、これを廃棄するための処理コストも別途にかかってしまうなどの欠点があった。
【０００５】
また、このような欠点を解消する手法としては、標準規格品である単位壁材としての外壁材を建築現場に搬出する前に、建築物に形成しようとしている壁面との関係を勘案し、必要のあるものは工場にて所望するサイズにプレカットし、このプレカット壁材として用意される外壁材を規格品としての外壁材と共に建築現場に搬入して建築物に取り付け、残材

となる端材の発生を極力少なくした外壁工法も既に提案されるに至っている。
【０００６】
しかも、この場合、標準規格品である単位壁材としての外壁材と、プレカット壁材としての外壁材とが混在した状態のもとで建築現場に搬入されることになるため、各外壁材には、その裏面側に壁面を形成する際に割り当てられるべき個々の壁面部位を示す識別記号が付され、この識別記号により各外壁材を仕分けることで正しい壁面位置に取り付けられるようになっていた。
【０００７】
【発明が解決しようとする課題】
ところで、各外壁材の裏面に識別記号を付して行われる上記従来工法によっても、建築現場に端材を残材として発生させることなく建築物の壁面を正しい位置関係のもとで形成することはできる。
【０００８】
しかし、上記従来工法による場合、前記識別記号は、各外壁材の裏面に付されているので、各外壁材を積み重ねた状態のもとで建築現場に搬入した際、いちいち１枚ずつ取り出してその裏面側に付されている識別記号を個別に確認しながら取付け作業を遂行する必要があり、作業効率を高める上での阻害要因となる不都合があった。
【０００９】
さらには、建築物の躯体の側の精度如何によっては、外壁材を所定の手順に従って順次取り付けていくうちに、寸法の合わない外壁材が出てくる可能性もあり、その際の調整作業に労力がさかれてしまう不具合もあった。
【００１０】
特に、窓等の開口部を壁面に備える建築物にあっては、プレカット壁材を前記開口部回りの外壁材として用いる際、結果的にプレカット寸法が合わなくなってしまうこともあり、このような場合における寸法合わせのための再調整作業が煩雑になる問題があった。
【００１１】
また、建築物における出隅部分や入り隅部分に位置する壁面は、対応する外壁材相互が突き合わされる部位であり、プレカット壁材をこのような隅部に外壁材として用いる場合には、取り付けて壁面を形成した際に突き合わされる端部相互が不揃いになってしまうこともあり、これを調整するための作業が必要になる不都合もあった。
【００１２】
【課題を解決するための手段】
本発明は従来技術にみられた上記課題に鑑みてなされたものであり、そのうち、請求項１記載の外壁工法の構成上の特徴は、それぞれを水平載置して積み重ねた際に表出する端面の側に建築物に壁面を形成する際の割当て位置との関係で定まる必要情報を個別に教示するための識別記号が付された標準規格品としての単位壁材と、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして同様に識別記号が付された墨付け壁材と、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して同様に識別記号が付されたプレカット壁材との少なくともいずれか一種もしくは二種以上を任意に組み合わせて構成される複数枚の外壁材が用いられ、これら複数枚の外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねる積重ね梱包により梱包し、その施工時には、梱包状態を解除して最上位に位置する外壁材から順次取り出し、必要があれば所定のカット処理を行い、その端面に付された前記識別記号が教示する壁面部位が建築物における窓等の開口部が位置する部位を含み、この開口部の開口縁部と突き合わされる外壁材の対応部位は、開口部の周縁部に予め配設されている囲枠材が備える受け溝部内に納めながら取り付けることで壁面を形成することにある。
なお、本発明に用いられる各外壁材は、前記積重ね梱包をさらに建築物の各壁面が向いている方位の別に仕分けた方位別梱包により用意したり、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意することができる。
【００１３】

また、請求項４記載の外壁工法の構成上の特徴は、それぞれを水平載置して積み重ねた際に表出する端面の側に建築物に壁面を形成する際の割当て位置との関係で定まる必要情報を個別に教示するための識別記号が付された標準規格品としての単位壁材と、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして同様に識別記号が付された墨付け壁材と、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して同様に識別記号が付されたプレカット壁材との少なくともいずれか一種もしくは二種以上を任意に組み合わせて構成される複数枚の外壁材が用いられ、これら複数枚の外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねる積重ね梱包により梱包し、その施工時には、梱包状態を解除して最上位に位置する外壁材から順次取り出し、必要があれば所定のカット処理を行い、その端面に付された前記識別記号が教示する壁面部位が建築物において出隅もしくは入隅が位置する隅部を含み、この隅部にて突き合わされる外壁材の対応部位は、前記隅部に外側から配設される役物材により隠蔽して取り付けることで壁面を形成すること にある。なお、本発明に用いられる各外壁材は、前記積重ね梱包をさらに建築物の各壁面が向いている方位の別に仕分けた方位別梱包により用意したり、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意することができる。

【００１４】

【００１５】

【００１６】

【作用】

このため、請求項１記載の外壁工法によれば、端面に識別記号が付された単位壁材と墨付け壁材とプレカット壁材とで構成される外壁材が用いられ、しかも、これら各外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねて梱包されているので、梱包を解いた際に最上位に位置している外壁材から順に取り出し、その端面に付されている前記識別記号を確認することで予め割り当てられている壁面部位との関係で定まる必要情報を容易に知ることができ、したがって、誰もが手際よく正確に壁面を形成することができる。

【００１７】

また、請求項１記載の外壁工法によれば、上記作用効果に加え、建築物の開口部を区画している開口縁部と突き合わされる外壁材の対応部位を囲枠材の受け溝部内に納めて取り付けることができるので、特にプレカット壁材を前記開口部回りの外壁材として用いる際にプレカット寸法が合わなくなってしまうことがあっても、これを受け溝部内に納めることで不揃いになる外壁材の端部を目隠しつつ、その寸法誤差を吸収しながら開口部回りに外壁材を取り付けることで作業性の向上を図ることができる。

【００１８】

一方、請求項４記載の外壁工法によれば、請求項１記載の外壁工法と同様に端面に識別記号が付された単位壁材と墨付け壁材とプレカット壁材とで構成される外壁材が用いられ、しかも、これら各外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねて梱包されているので、梱包を解いた際に最上位に位置している外壁材から順に取り出し、その端面に付されている前記識別記号を確認することで予め割り当てられている壁面部位との関係で定まる必要情報を容易に知ることができ、したがって、誰もが手際よく正確に壁面を形成することができる。

【００１９】

また、請求項４記載の外壁工法によれば、上記作用効果に加え、建築物の出隅もしくは入隅が位置する隅部にて突き合わされる外壁材の突合せ端部が仮に不揃いになってしまうことがあっても、これら突合せ端部を含む隅部を外側から役物材により隠蔽することができるので、その調整作業を不必要なものとすることで作業性の向上を図ることができる。なお、請求項１記載の外壁工法と請求項４記載の外壁工法とのいずれにおいても、前記各外壁材が建築物の各壁面が向いている方位の別に細分化して梱包（方位別梱包）されている場合には、例えば東西南北の別に外壁材を搬入することができるので、外壁材の混在をな

くして作業性の向上を図ることができ、また、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意されている場合には、現場での仕分け作業をなくして作業能率をより高めることができる。

【００２０】

【実施例】

本発明に係る外壁工法に用いられる外壁材は、建築物の外周面に壁面を形成する際に用いるべく例えば２７３０ｍｍ（横）×４５５ｍｍ（縦）×１６ｍｍ（厚み）など、適宜の規格サイズからなる標準規格品として用意される窯業系板材としての単位壁材と、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして用意される墨付け壁材と、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して用意されるプレカット壁材とを含むものである。なお、前記外壁材は、窯業系板材のほか、必要に応じコンクリート系板材など、他の適宜の素材からなる板材を用いるものであってもよい。

【００２１】

図１は、上記外壁材についての一例を示す一部を省略した斜視図であり、前記単位壁材や墨付け壁材やプレカット壁材からなる外壁材１１は、その表面１２の側に例えば本物のレンガ積みと同じような意匠的な雰囲気を醸成することができる凹凸模様や色彩を付すなどした適宜の意匠的な処理が施されているものを用いるのが好ましく、通常、建築物の側に取り付けるために必要な適宜の構造的な加工を施すことでその全体が形成されている。

【００２２】

また、前記外壁材１１は、小口を含む端面１３のいずれか一箇所もしくは複数箇所に前記壁面を形成する際に割り当てられている個々の壁面部位との関係で定まる必要情報を教示するための識別記号１５を直接マーキングし、あるいは図示例のように「イ－１－ａ」などの識別記号１５が予め印字手段やスタンピング手段などの適宜の表示手段により表示されている貼着用テープ片１４を貼り付けるなどして形成されており、複数の外壁材１１を水平載置して積み重ねた際に各外壁材１１に付されている識別記号１５の目視確認が自在となっている。

【００２３】

なお、識別記号１５は、壁面における最下側を意味するものを「イ」とし、この最下側での右隅部を意味するものを「１」とし、その際の取付け手法の種類を特定するものを「ａ」として「イ－１－ａ」と表示するなど、組み合わされるそれぞれの記号に特定の意味を付与し、これを見る作業者がその意味することを理解できる適宜のパターンのもとで施工作業上必要となる情報を表示することができる。

【００２４】

本発明における請求項１および４に記載の外壁工法は、上記外壁材を用いて行われる。

【００２５】

すなわち、本発明方法において外壁材１１は、それぞれを水平載置して積み重ねた際に表出する端面１３の側に建築物に壁面を形成する際の割当て位置との関係で定まる施工作業上必要な情報を個別に教示するための識別記号１５が付された標準規格品としての単位壁材１１ａと、この単位壁材の裏面にカット位置を割り付けるために予め墨付けして同様に識別記号１５が付された墨付け壁材１１ｃと、前記単位壁材から不要部分のすべてもしくは一部を事前に切除して同様に識別記号１５が付されたプレカット壁材１１ｂとの少なくともいずれか一種もしくは二種以上を任意に組み合わせて使用される。

【００２６】

この場合、各外壁材１１（１１ａ，１１ｂ，１１ｃ）は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねて、例えば止着バンド１６を巻き付けるなど、適宜の梱包手段により積重ね梱包することで図２に示すようにワンパック化して用意されることになる。

【００２７】

因に、外壁材１１を土台が位置する基礎側から屋根側へと順に積み上げられながら壁面が形成される場合にあっては、図２において識別記号１５が「ホ－２－ａ」として示される

最下位に位置する外壁材１１はワンパック化されて梱包状態にある当該各外壁材１１のなかで最後に取り付けられるべきものとなり、識別記号１５が「イ－１－ａ」として示される最上位に位置する外壁材１１は最初に取り付けられるべきものとなる。

【００２８】

このようにワンパック化して梱包された各外壁材１１は、建築現場に搬入された後、その梱包状態が解かれ、最上位に位置する外壁材１１（１１ａ）から順次取り出し、その端面１３に付された前記識別記号１５が教示する壁面部位との関係で定まる必要情報に従った所定の段取りのもとで取付け施工され、壁面が形成される。

【００２９】

また、本発明方法において前記各外壁材１１は、建築物の各壁面が向いている例えば東西南北からなる方位の別に細分化して梱包する方位別梱包により行ってもよく、その場合の識別記号１５は、例えば図３の（イ）に示すように南面を意味する「Ｓ」と、壁面の最下側を意味する「イ」と、この最下側での右隅部を意味する「１」と、その際の取付け手法の種類を特定する「ａ」とを組み合わせた「Ｓ－イ－１－ａ」などとして表示されることになる。

【００３０】

さらに、建築物が二階建て以上のものである場合は、当該建築物の階数の別にさらに細分化して梱包する各階別梱包によって行ってもよく、その場合の識別記号１５は、例えば図３の（ロ）に示すように階数が一階であることを示す「Ｆ１」と、その方位が南面であることを意味する「Ｓ」と、取り付けるべき壁面部位が壁面の最下側を意味する「イ」と、そのなかでの右隅部を意味する「１」と、その際の取付け手法の種類を特定する「ａ」とを組み合わせた「Ｆ１－Ｓ－イ－１－ａ」などとして表示されることになる。

【００３１】

しかも、前記識別記号１５が教示する壁面部位には、図４に示すように建築物２１におけるサッシ窓２７などが配設される開口部２３が位置する部位を含むものであり、図５と図６とからも明らかなように開口部２３を区画している開口縁部２４と突き合わされる外壁材１１の対応部位１７は、開口部２３の周縁部に予め配設されている囲枠材２５の側に納め入れながら取り付けることで壁面２２として形成される。

【００３２】

すなわち、外壁材１１と同様な窯業系板材などの素材のほか、アルミニウム等の金属材や合成樹脂材や木材など用いて形成される前記囲枠材２５は、止着用釘材２８を用いることで開口縁部２４の近傍に配置されている構造木材２９の側に固着されている。

【００３３】

しかも、前記囲枠材２５は、前記開口縁部２４と突き合わされるような配置関係のもとで対面する外壁材１１の対応部位１７の側に向けて開口する受け溝部２６を有しており、この受け溝部２６内に外壁材１１の前記対応部位１７を納め入れることで開口部２３回りの壁面２２が形成されることになる。

【００３４】

なお、外壁材１１の前記対応部位１７は、水膨張性ゴム材などからなる第１止水材３０やシーリング材などからなる第２止水材３１を介在させるなど、適宜のシーリング処理を施すことで囲枠材２５の受け溝部２６内に納め入れるのが望ましい。

【００３５】

一方、請求項４記載の発明は、請求項１記載の外壁工法に用いられる外壁材と同じ外壁材を用いて行われるものであり、前記識別記号１５が教示する壁面部位には建築物２１において出隅３３ａもしくは入隅３３ｂが位置する隅部３３を含み、この隅部３３にて突き合わされる外壁材１１の対応部位は、図７と図８とに示すように前記隅部３３に外側から配設される役物材３４により隠蔽して取り付けることで壁面を形成することに特徴がある。

【００３６】

すなわち、外壁材１１と同様な窯業系板材などの素材のほか、アルミニウム等の金属材や合成樹脂材や木材など用いて形成される前記役物材３４は、隅部３３にて突き合わされる

外壁材１１の対応部位をその外側から覆設するようにして配設され、止着用釘材を用いるなどして構造木材の側に固着され、役物材３４の外縁部をシーリング材３５で封止して壁面２２が形成されることになる。なお、役物材３４は、例えば図示例のように出隅３３ａに形成される稜角や入隅３３ｂに形成される内角に対応させた断面Ｌ字形を呈するものなど、適宜の断面形状を呈するものを採用することができる。

【００３７】

また、本発明方法においも前記各外壁材１１は、建築物の各壁面が向いている例えば東西南北からなる方位の別に細分化して梱包する方位別梱包により行ってもよく、その場合の識別記号１５は、例えば図３の（イ）に示すように南面を意味する「Ｓ」と、壁面の最下側を意味する「イ」と、この最下側での右隅部を意味する「１」と、その際の取付け手法の種類を特定する「ａ」とを組み合わせた「Ｓ－イ－１－ａ」などとして表示されることになる。さらに、建築物が二階建て以上のものである場合は、当該建築物の階数の別にさらに細分化して梱包する各階別梱包によって行ってもよく、その場合の識別記号１５は、例えば図３の（ロ）に示すように階数が一階であることを示す「Ｆ１ 」と、その方位が南面であることを意味する「Ｓ」と、取り付けるべき壁面部位が壁面の最下側を意味する「イ」と、そのなかでの右隅部を意味する「１」と、その際の取付け手法の種類を特定する「ａ」とを組み合わせた「Ｆ１ －Ｓ－イ－１－ａ」などとして表示されることになる。

【００３８】

本発明は上述したようにして構成されているので、請求項１記載の外壁工法によれば、端面１３に識別記号１５が付された単位壁材１１ａとプレカット壁材１１ｂと墨付け壁材１１ｃとで構成される外壁材１１が用いられ、しかも、これら各外壁材１１（１１ａ，１１ｂ，１１ｃ）は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねて梱包されているので、梱包を解いた際に図２に示すように最上位に位置している外壁材１１（１１ａ）から順に取り出し、その端面１３に付されている前記識別記号１５を確認することで、それぞれの外壁材１１（１１ａ，１１ｂ，１１ｃ）に予め割り当てられている壁面部位との関係で定まる施工作業上必要とされる情報を容易に知ることができる。

【００３９】

したがって、本発明方法によれば、前記識別記号１５から与えられる情報に従い、熟練の程度とは無関係に誰もが手際よく、かつ、正確に壁面を形成することができる。

【００４０】

なお、前記各外壁材１１が識別記号１５に従い建築物の各壁面が向いている例えば東西南北の方位の別に細分化して梱包（方位別梱包）されている場合には、方位の別に外壁材１１を搬入することができるので、在庫管理を容易化して外壁材の混在をなくすことで作業性の向上を図ることができる。

【００４１】

また、前記識別記号１５に従いさらに細分化して建築物の各階別に各外壁材１１が梱包（各階別梱包）されている場合には、現場での仕分け作業をなくして作業能率をより高めることができる。

【００４２】

しかも、請求項１記載の外壁工法によれば、上記作用効果に加え、建築物２１の開口部２３を区画している開口縁部２４と突き合わされる外壁材１１の対応部位１７は、囲枠材２５の受け溝部２６内に納め入れて取り付けることができる。

【００４３】

このため、特にプレカット壁材１１ｂを前記開口部２３回りの外壁材１１として用いる場合には、仮にプレカット寸法が合わなくなってしまうことがあっても、これを受け溝部２６内に納め入れることで不揃いになる外壁材１１の端部を目隠しすることができ、しかも、このような寸法誤差を受け溝部２６内に納め入れることで吸収することができるので、開口部２３回りに外壁材１１を取り付けて壁面２２を形成する際の作業性の向上を図ることができる。

【００４４】
一方、請求項４記載の外壁工法によれば、請求項１記載の外壁工法が奏する作用効果に加え、建築物の躯体の側の精度との関係もあって、建築物の出隅３３ａもしくは入隅３３ｂが位置する隅部３３にて突き合わされる外壁材１１の突合せ端部が仮に不揃いになってしまうことがあっても、これら外壁材１１の突合せ端部を含む隅部３３を、出隅３３ａの場合は図７に示すように、入隅３３ｂの場合は図８に示すようにそれぞれ外側から役物材３４により隠蔽することができるので、その調整作業を不必要なものとすることで作業性の向上を図ることができる。なお、前記各外壁材１１が請求項１記載の外壁工法と同様に方位別梱包や各階別梱包により梱包されている場合は、既に述べた請求項１記載の外壁工法におけると同様な作用効果を得ることができる。

【００４５】
【発明の効果】
【００４６】
以上述べたように本発明における請求項１および４に記載の外壁工法によれば、端面に識別記号が付された単位壁材と墨付け壁材とプレカット壁材とで構成される外壁材が用いられ、しかも、これら各外壁材は、現場で最後に使用されるものを最下位に、最初に使用されるものを最上位に位置するようにその使用順に積み重ねて梱包されているので、梱包を解いた際に最上位に位置している外壁材から順に取り出し、その端面に付されている前記識別記号を確認することで予め割り当てられている壁面部位との関係で定まる必要情報を容易に知ることができ、したがって、誰もが手際よく正確に壁面を形成することができる。

【００４７】
また、本発明の請求項１および４に記載の外壁工法において、前記各外壁材が建築物の各壁面が向いている方位の別に細分化して梱包（方位別梱包）されている場合には、例えば東西南北の別に外壁材を搬入することができるので、外壁材の混在をなくして作業性の向上を図ることができ、さらに、本発明の請求項１および４に記載の外壁工法において、前記積重ね梱包または前記方位別梱包をさらに建築物の各階別に仕分けた各階別梱包により用意されている場合には、現場での仕分け作業をなくして作業能率をより高めることができる。

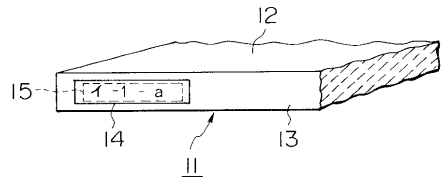
【００４８】
しかも、請求項１記載の外壁工法によれば、上記作用効果に加え、建築物の開口部を区画している開口縁部と突き合わされる外壁材の対応部位を囲枠材の受け溝内に納めて取り付けることができるので、特にプレカット壁材を前記開口部回りの外壁材として用いる際にプレカット寸法が合わなくなってしまうことがあっても、これを受け溝内に納めることで不揃いになる外壁材の端部を目隠しつつ、その寸法誤差を吸収しながら開口部回りに外壁材を取り付けることで作業性の向上を図ることができる。

【００４９】
一方、請求項４記載の外壁工法によれば、建築物の出隅もしくは入隅が位置する隅部にて突き合わされる外壁材の突合せ端部が仮に不揃いになってしまうことがあっても、これら突合せ端部を含む隅部を外側から役物材により隠蔽することができるので、その調整作業を不必要なものとすることで作業性の向上を図ることができる。

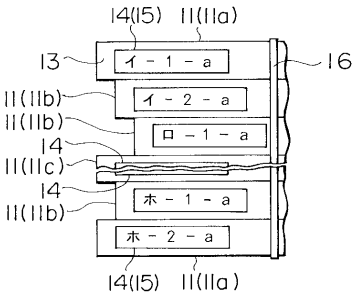
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明における請求項１および４記載の外壁工法に用いられる外壁材の一例を示す一部を省略した斜視図である。
【図２】本発明における請求項１および４記載の外壁工法に用いられる外壁材の積重ね梱包時における状態例を示す説明図である。
【図３】本発明における請求項１および４記載の外壁工法に用いられる外壁材の端面に付された識別記号の表示例を示す説明図であり、このうち、（イ）は方位別梱包時における表示例を、（ロ）は各階別梱包時における表示例をそれぞれ示す。
【図４】本発明における請求項１記載の外壁工法により実現される建築物の開口部回りを

示す正面説明図である。
【図５】図４における一例としてのＡ－Ａ線断面図である。
【図６】図４における一例としてのＢ－Ｂ線断面図である。
【図７】本発明における請求項４記載の外壁工法により実現される建築物の出隅部分の状態を示す説明図である。
【図８】本発明における請求項４記載の外壁工法により実現される建築物の入隅部分の状態を示す説明図である。
【符号の説明】
１１　外壁材
１１ａ　単位壁材
１１ｂ　プレカット壁材
１１ｃ　墨付け壁材
１２　表面
１３　端面
１４　貼着用テープ片
１５　識別記号
１６　止着バンド
１７　対応部位
２１　建築物
２２　壁面
２３　開口部
２４　開口縁部
２５　囲枠材
２６　受け溝部
２７　サッシ窓
２８　止着用釘材
２９　構造木材
３０　第１止水材
３１　第２止水材
３３　隅部
３３ａ　出隅
３３ｂ　入隅
３４　役物材
３５　シーリング材

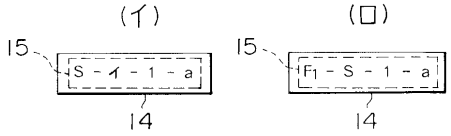
【図１】



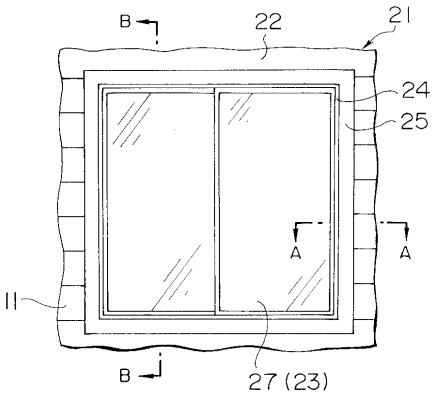
【図２】



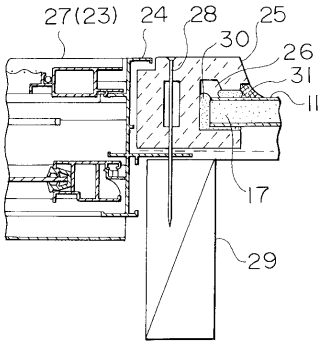
【図３】



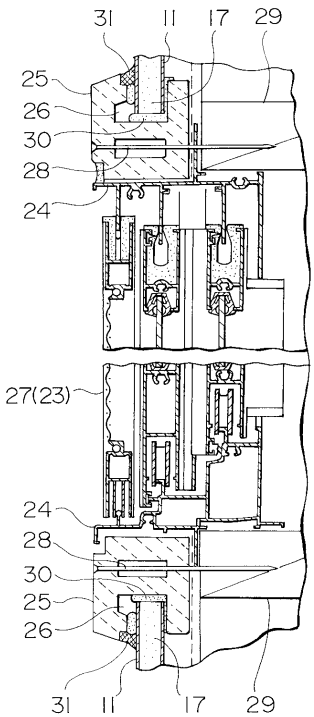
【図４】



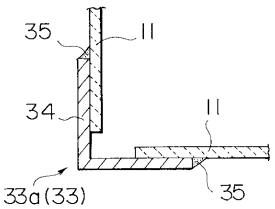
【図５】



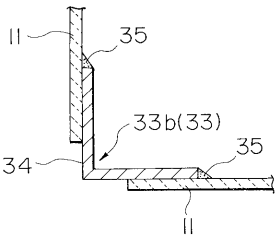
【図６】



【図７】



【図８】



フロントページの続き

(72)発明者　矢田　達雄
埼玉県新座市野火止８丁目１６番１３号　株式会社トーア関東支店内
(72)発明者　江澤　明
東京都千代田区丸の内二丁目１番２号　旭硝子株式会社内
(72)発明者　金沢　光明
東京都千代田区丸の内二丁目１番２号　旭硝子株式会社内
(72)発明者　木原　幹夫
東京都千代田区丸の内二丁目１番２号　旭硝子株式会社内

審査官　千葉　成就

(56)参考文献　特開平０３－１１９２４６（ＪＰ，Ａ）
特開平０３－０６３３５５（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－２６３５２９（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－２６３５２８（ＪＰ，Ａ）
特開平０６－３３６８４０（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－２８５０１９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.^{7}，ＤＢ名)
B26D 5/00
E04F 13/08
E04G 21/14